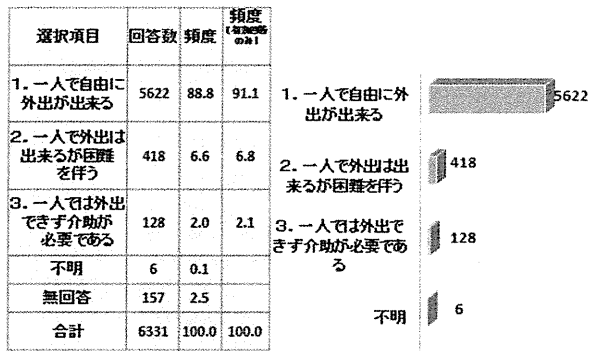


人 (2.0%、2.1%)、不明 6 人 (0.6%)、無回答 157 人 (2.5%) であった。

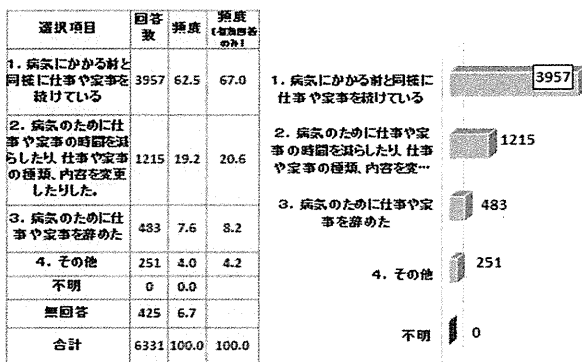
F-5 あなたの日常生活状況について教えてください



F-6 病気が、仕事や家事に与えた影響の度合いについてお聞かせください

6,331 人中、病気にかかる前と同様に仕事や家事を続けている 3,957 人 (62.5%、67.0%)、病気の為に仕事や家事の時間を減らしたり、仕事や家事の種類、内容を変更したりした 1,215 人 (19.2%、20.6%)、病気の為に仕事や家事を辞めた 483 人 (7.6%、8.2%)、その他 251 人 (4.0%、4.2%)、不明 0 人、無回答 425 人 (6.7%) であった。

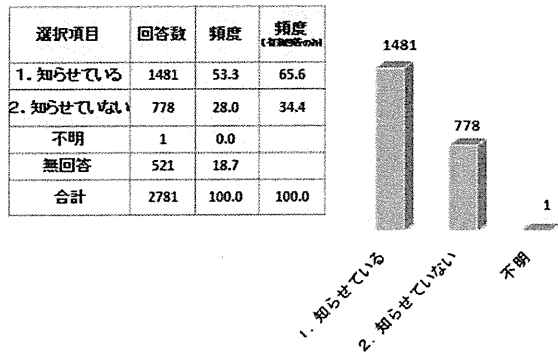
F-6 病気が、仕事や家事に与えた影響の度合いについてお聞かせ下さい



F-7 仕事をお持ちの方にお尋ねします。職場の方々には、あなたの病気の事を知らせていますか

2,781 人中、知らせている 1,481 人 (53.3%、65.6%)、知らせていない 778 人 (28.0%、34.4%)、不明 1 人、無回答 521 人 (18.7%) であった。

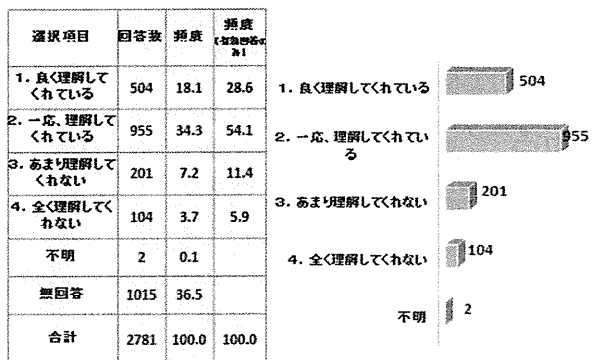
F-7 仕事をお持ちの方にお尋ねします。職場の方々には、あなたの病気の事を知らせていますか



F-8 仕事をお持ちの方にお尋ねします。職場の方々には、あなたの病気に理解を示してくれていますか

2,781 人中、良く理解してくれている 504 人 (18.1%、28.6%)、一応理解してくれている 955 人 (34.3%、54.1%)、あまり理解してくれない 201 人 (7.2%、11.4%)、全く理解してくれない 104 人 (3.7%、5.9%)、不明 2 人 (0.1%)、無回答 1,015 人 (36.5%) であった。

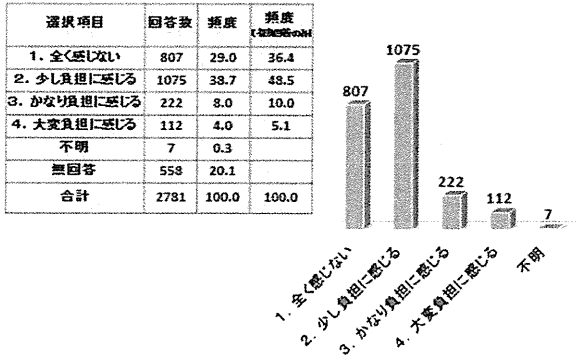
F-8 仕事をお持ちの方にお尋ねします。職場の方々には、あなたの病気に理解を示してくれていますか



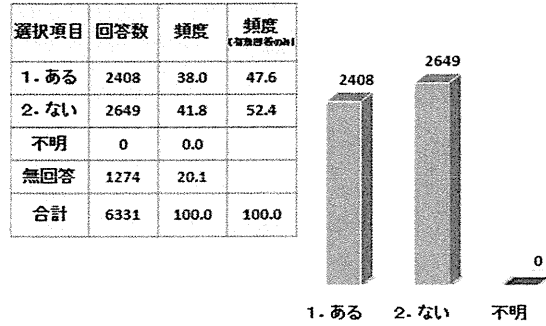
F-9 仕事をお持ちの方にお尋ねします。仕事をしながらの肝臓病治療は負担に感じますか

2,781 人中、全く感じない 807 人 (29.0%、36.4%)、少し負担に感じる 1,075 人 (38.7%、48.5%)、かなり負担に感じる 222 人 (8.0%、10.0%)、大変負担に感じる 112 人 (4.0%、5.1%)、不明 7 人 (0.3%)、無回答 558 人 (20.1%) であった。

F-9 仕事をお持ちの方にお尋ねします。仕事をしながらの肝臓病治療は負担に感じますか



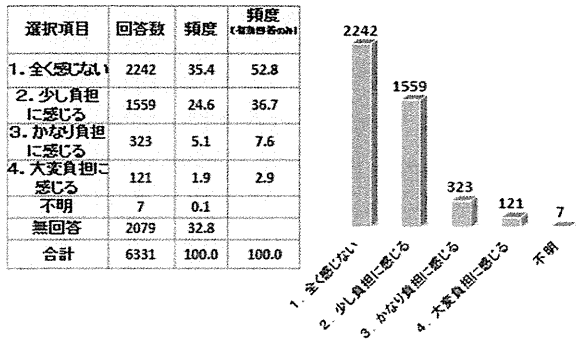
F-11 日常生活で、肝臓病を患っていることによる悩みやストレスはありますか



F-10 家事をしながらの肝臓病治療は負担に感じますか

6,331人中、全く感じない2,242人(35.4%、52.8%)、少し負担に感じる1,559人(24.6%、36.7%)、かなり負担に感じる323人(5.1%、7.6%)、大変負担に感じる121人(1.9%、2.9%)、不明7人(0.1%)、無回答2,079人(32.8%)であった。

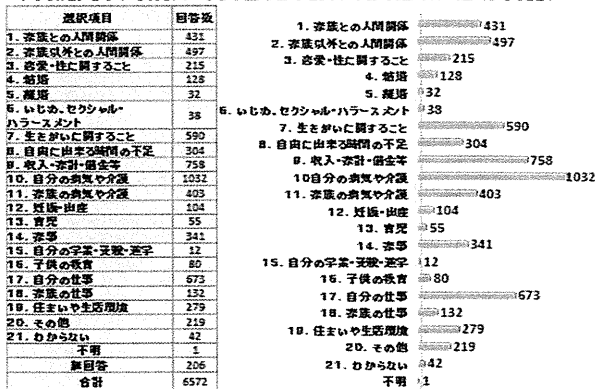
F-10 家事をしながらの肝臓病治療は負担に感じますか



F-12 悩みやストレスの原因について、下表であてはまる番号すべてに○を付けてください。また、その中でも最も気になる原因の番号を表下の番号記入欄に記入してください

回答合計6,572中、家族との人間関係431人、家族以外との人間関係497人、恋愛・性に関すること215人、結婚128人、離婚32人、いじめ、セクシャル・ハラスメント38人、生甲斐に関すること590人、自由にできる時間の不足304人、収入・家計・借金等758人、自分の病気や介護1,032人、家族の病気や介護403人、妊娠・出産104人、育児55人、家事341人、自分の学業・受験・進学12人、子供の教育80人、自分の仕事673人、家族の仕事132人、住まいや生活環境279人、その他219人、わからない42人、不明1人、無回答206人であった。

F-12 悩みやストレスの原因について、下表であてはまる番号すべてに○を付けてください。また、その中でも最も気になる原因の番号を表下の番号記入欄に記入してください



F-12 最も気になる原因の番号記入欄

2,408 人中、家族との人間関係 87 人、家族以外との人間関係 69 人、恋愛・性に関すること 36 人、結婚 20 人、離婚 4 人、いじめ、セクシャル・ハラスメント 8 人、生甲斐に関すること 132 人、自由にできる時間の不足 37 人、収入・家計・借金等 248 人、自分の病気や介護 412 人、家族の病気や介護 101 人、妊娠・出産 31 人、育児 10 人、家事 41 人、自分の学業・受験・進学 1 人、子供の教育 8 人、自分の仕事 137 人、家族の仕事 7 人、住まいや生活環境 20 人、その他 119 人、わからない 13 人、不明 49 人、無回答 818 人であった。

F-12 最も気になる原因の番号記入欄

選択項目	回答数
1. 家族との人間関係	87
2. 家族以外との人間関係	69
3. 恋愛・性に関すること	36
4. 結婚	20
5. 離婚	4
6. いじめ、セクシャル・ハラスメント	8
7. 生甲斐に関すること	132
8. 自由にできる時間の不足	37
9. 収入・家計・借金等	248
10. 自分の病気や介護	412
11. 家族の病気や介護	101
12. 妊娠・出産	31
13. 育児	10
14. 家事	41
15. 自分の学業・受験・進学	1
16. 子供の教育	8
17. 自分の仕事	137
18. 家族の仕事	7
19. 住まいや生活環境	20
20. その他	119
21. わからない	13
不明	49
無回答	818
合計	2408

F-13 悩みやストレスの相談状況について、下表であてはまる番号すべてに○を付けてください。また、質問 F-12 の最も気になる原因についての相談の場合あてはまる番号のうち、主なものを 2 つまで表下の番号記入欄に記入してください。

3,892 人中、1.家族に相談している 1,248 人、2.友人・知人に相談している 412 人、3.職場の上司、学校の先生に相談している 32 人、4.保健所・福祉事務所などの公的機関の相談窓口を利用している（電話・インターネット等での相談含む）83 人、5.患者会の電話相談を利用している 17 人、6.病院・診療所の医師に相談している 792 人、7.病院・診療所の看護師に相談している 119 人、8.患者同士でインターネットを利用して相談している 24 人、9.1~8 以外で相談している 23

人、10.相談したいが誰にも相談できないでいる 327 人、11.相談しいが相談先がわからない 247 人、12.相談する必要がない 167 人、不明 0 人、無回答 401 人であった。

F-13 悩みやストレスの相談状況について、下表であてはまる番号すべてに○を付けてください。また、質問 F-12 の最も気になる原因についての相談の場合あてはまる番号のうち、主なものを 2 つまで表下の番号記入欄に記入してください

選択項目	回答数
1. 家族に相談している	1248
2. 友人・知人に相談している	412
3. 職場の上司、学校の先生に相談している	32
4. 保健所・福祉事務所などの公的機関の相談窓口を利用している（電話・インターネット等での相談含む）	83
5. 患者会の電話相談を利用している	17
6. 病院・診療所の医師に相談している	792
7. 病院・診療所の看護師に相談している	119
8. 患者同士でインターネットを利用して相談している	24
9. 01~08 以外で相談している（職場の相談窓口等）	23
10. 相談したいが誰にも相談できないでいる	327
11. 相談したいが相談先がわからない	247
12. 相談する必要がない	167
不明	0
無回答	401
合計	3892

F-13 最も気になる原因の相談状況の番号記入欄

3,291 人中、1.家族に相談している 796 人、2.友人・知人に相談している 225 人、3.職場の上司、学校の先生に相談している 25 人、4.保健所・福祉事務所などの公的機関の相談窓口を利用している（電話・インターネット等での相談含む）53 人、5.患者会の電話相談を利用している 8 人、6.病院・診療所の医師に相談している 537 人、7.病院・診療所の看護師に相談している 56 人、8.患者同士でインターネットを利用して相談している 15 人、9.1~8 以外で相談している 37 人、10.相談したいが誰にも相談できないでいる 251 人、11.相談しいが相談先がわからない 184 人、12.相談する必要がない 72 人、不明 1 人、無回答 1,031 人であった。

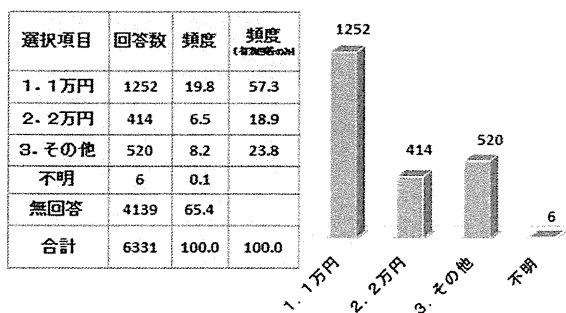
F-13 最も気になる原因の相談状況の番号記入欄

選択項目	回答数
1. 家族に相談している	796
2. 友人・知人に相談している	225
3. 職場の上司、学校の先生に相談している	25
4. 保健所・福祉事務所などの公的機関の相談窓口を利用している（電話・インターネット等での相談含む）	53
5. 患者会の電話相談を利用している	8
6. 病院・診療所の医師に相談している	537
7. 病院・診療所の看護師に相談している	56
8. 患者同士でインターネットを利用して相談している	15
9. 01~08 以外で相談している（職場の相談窓口等）	37
10. 相談したいが誰にも相談できないでいる	251
11. 相談したいが相談先がわからない	184
12. 相談する必要がない	72
不明	1
無回答	1031
合計	3291

F-14 肝炎の助成制度（インターフェロン治療ないし B 型肝炎抗ウイルス薬（核酸アナログ製剤治療）を受けたことがありますか。受けたことがある方は、1～3 に○を付け、1ヶ月あたりの自己負担額の上限額を教えてください

6,331 人中、1 万円 1,252 人（19.8%、57.3%）、2 万円 414 人（6.5%、18.9%）、その他 520 人（8.2%、23.8%）、不明 6 人（0.1%）、無回答 4,139 人（65.4%）であった。

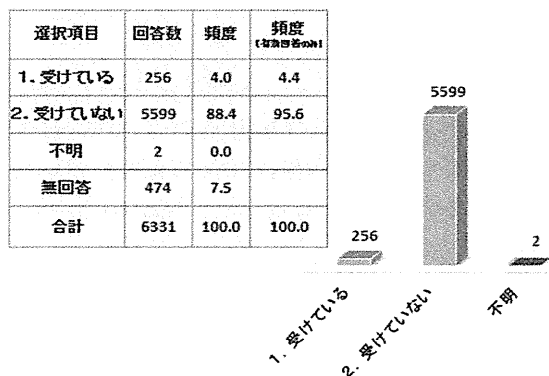
F-14 肝炎の助成制度（インターフェロン治療ないし B 型肝炎抗ウイルス薬（核酸アナログ製剤治療）を受けたことがありますか。受けたことがある方は、1～3 に○を付け、1ヶ月あたりの自己負担額の上限額を教えてください



F-15 生活保護は受けていますか

6,331 人中、受けている 256 人（4.0%、4.4%）、受けていない 5,599 人（88.4%、95.6%）、不明 2 人、無回答 474 人（7.5%）であった。

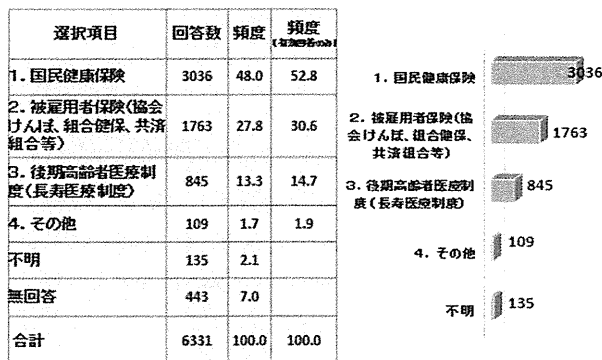
F-15 生活保護は受けていますか



F-16 あなたの加入している医療保険はどれですか

6,331 人中、国民健康保険 3,036 人（48.0%、52.8%）、被雇用者保険（協会けんぽ、組合保険、共済組合等）1,763 人（27.8%、30.6%）、後期高齢者医療制度（長寿医療制度）845 人（13.3%、14.7%）、その他 109 人（1.7%、1.9%）、不明 135 人（2.1%）、無回答 443 人（7.0%）であった。

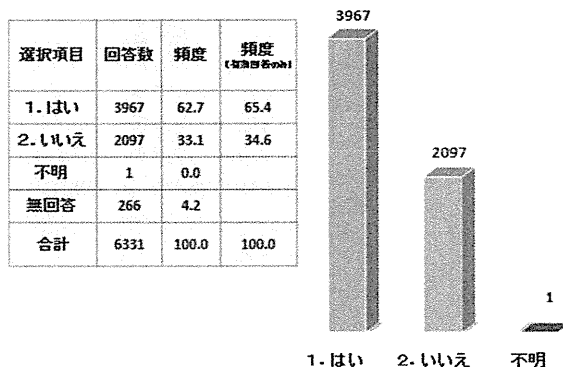
F-16 あなたの加入している医療保険はどれですか



F-17 年金を受給されていますか

6,331 人中、はい 3,967 人（62.7%、65.4%）、いいえ 2,097 人（33.1%、34.6%）、不明 1 人、無回答 266 人（4.2%）であった。

F-17 年金を受給されていますか

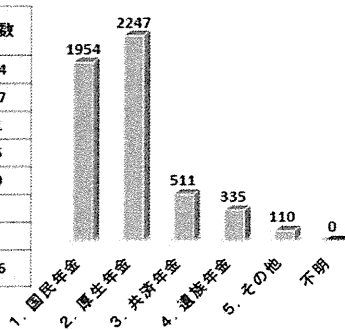


F-18 年金を受給されている方にお尋ねします。年金の種類について、あてはまる番号すべてに○を付けてください

5,196 人中、国民年金 1,954 人、厚生年金 2,247 人、共済年金 511 人、遺族年金 335 人、その他 110 人、不明 0 人、無回答 39 人であった。

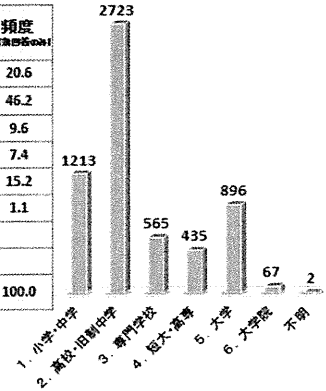
F-18 年金を受給されている方にお尋ねします。年金の種類について、あてはまる番号すべてに○をつけてください

選択項目	回答数
1. 国民年金	1954
2. 厚生年金	2247
3. 共済年金	511
4. 遺族年金	335
5. その他	110
不明	0
無回答	39
合計	5196



F-19-Ⅱ 「在学中」の方はその学校について、「卒業」された方は最終卒業学校について、それぞれ○をつけてください

選択項目	回答数	頻度	頻度 (有効回答率%)
1. 小学・中学	1213	19.2	20.6
2. 高校・旧制中学	2723	43.0	46.2
3. 専門学校	565	8.9	9.6
4. 短大・高専	435	6.9	7.4
5. 大学	896	14.2	15.2
6. 大学院	67	1.1	1.1
不明	2	0.0	
無回答	430	6.8	
合計	6331	100.0	100.0

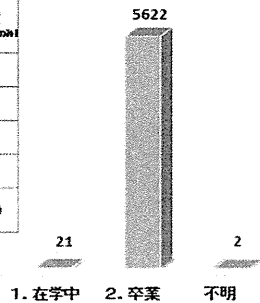


F-19-Ⅰ あなたが受けた教育の状況について教えてください。「在学中」の方はその学校について、「卒業」された方は最終卒業学校について、それぞれ○を付けてください

6,331人中、在学中 21人(0.3%、0.4%)、卒業 5,622人(88.8%、99.6%)、不明 2人、無回答 686人(10.8%)であった。

F-19-Ⅰ あなたが受けた教育の状況について教えてください。「在学中」の方はその学校について、「卒業」された方は最終卒業学校について、それぞれ○を付けてください

選択項目	回答数	頻度	頻度 (有効回答率%)
1. 在学中	21	0.3	0.4
2. 卒業	5622	88.8	99.6
不明	2	0.0	
無回答	686	10.8	
合計	6331	100.0	100.0

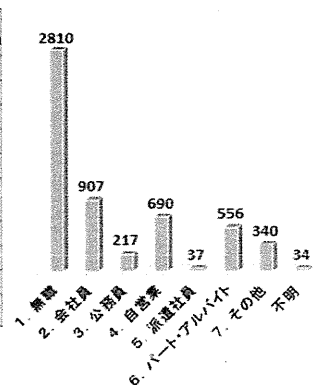


F-20 あなたの仕事内容について教えてください

6,331人中、無職 2,810人(44.4%、50.6%)、会社員 907人(14.3%、16.3%)、公務員 217人(3.4%、3.9%)、自営業 690人(10.9%、12.4%)、派遣社員 37人(0.6%、0.7%)、パート・アルバイト 556人(8.8%、10.0%)、その他 340人(5.4%、6.1%)、不明 34人(0.5%)、無回答 740人(11.7%)であった。

F-20 あなたの仕事内容について教えてください

選択項目	回答数	頻度	頻度 (有効回答率%)
1. 無職	2810	44.4	50.6
2. 会社員	907	14.3	16.3
3. 公務員	217	3.4	3.9
4. 自営業	690	10.9	12.4
5. 派遣社員	37	0.6	0.7
6. パート・アルバイト	556	8.8	10.0
7. その他	340	5.4	6.1
不明	34	0.5	
無回答	740	11.7	
合計	6331	100.0	100.0



F-19-Ⅱ 「在学中」の方はその学校について、「卒業」された方は最終卒業学校について、それぞれ○を付けてください

6,331人中、小学・中学 1,213人(19.2%、20.6%)、高校・旧制中学 2,723人(43.0%、46.2%)、専門学校 565人(8.9%、9.6%)、短大・高専 435人(6.9%、7.4%)、大学 896人(14.2%、15.2%)、大学院 67人(1.1%、1.1%)、不明 2人、無回答 430人(6.8%)であった。

F-21 現在、会社員・公務員の方は、現時点までの合計の勤続年数を教えてください

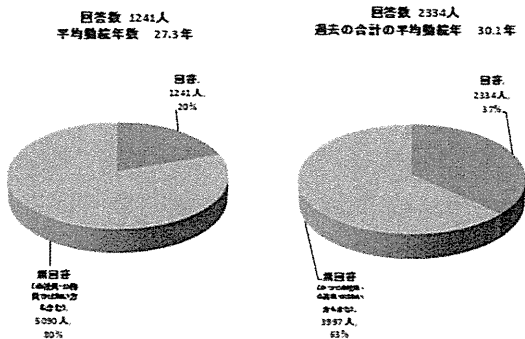
回答数 1,241人(20.0%)、平均勤続年数は 27.3年、無回答 5,090人(80.0%)であった。

F-22 現在は退職し、かつて会社員・公務員だった方は、過去の合計の勤続年数を教えてください

回答数 2,334人(37.0%)、過去の合計の平均勤続年数は 30.1年、無回答 3,997人(63.0%)であった。

F-21 現在、会社員・公務員の方は、現時点までの合計の勤続年数を教えてください

F-22 現在は退職し、かつて会社員・公務員だった方は、過去の合計の勤続年数を教えてください

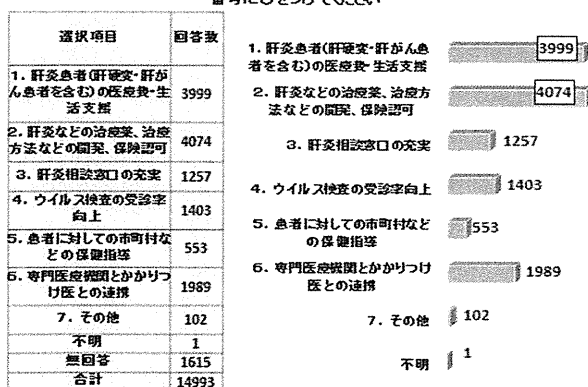


G. 肝炎対策、自由記述

G-1 国(厚生労働省)の「肝炎対策の推進」で重要と思われるものを3つ選び、番号に○を付けてください

回答合計 14,993 中、肝炎患者(肝硬変・肝癌患者を含む)の医療費・生活支援 3,999 人、肝炎などの治療費、治療方法などの開発、保険認可 4,074 人、肝炎相談窓口の充実 1,257 人、ウイルス検査の受診率向上 1,403 人、患者に対しての市町村などの保健指導 553 人、専門医療機関とかかりつけ医との連携 1,989 人、その他 102 人、不明 1 人、無回答 1,615 人であった。

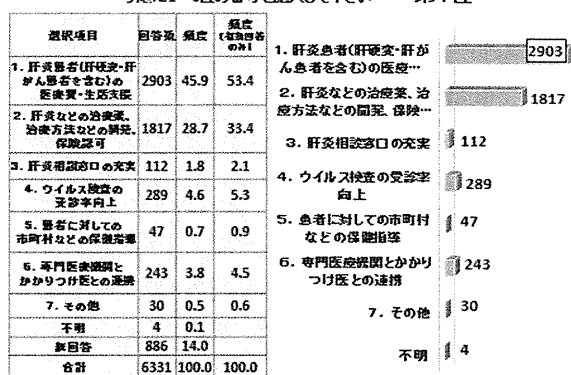
G-1 国(厚生労働省)の「肝炎対策の推進」で重要と思われるものを3つ選び、番号に○を付けてください



G-1 国(厚生労働省)の「肝炎対策の推進」で重要と思われるものを3つ選び、重要と思う順に1~3位の番号を記入して下さい(第1位)

6,331 人中、肝炎患者(肝硬変・肝癌患者を含む)の医療費・生活支援 2,903 人(45.9%、53.4%)、肝炎などの治療費、治療方法などの開発、保険認可 1,817 人(28.7%、33.4%)、肝炎相談窓口の充実 112 人(1.8%、2.1%)、ウイルス検査の受診率向上 289 人(4.6%、5.3%)、患者に対しての市町村などの保健指導 47 人(0.7%、0.9%)、専門医療機関とかかりつけ医との連携 243 人(3.8%、4.5%)、その他 30 人(0.5%、0.6%)、不明 4 人(0.1%)、無回答 886 人(14.0%)であった。

G-1 国(厚生労働省)の「肝炎対策の推進」で重要と思われるものを3つ選び、重要と思う順に1~3位の番号を記入して下さい(第1位)

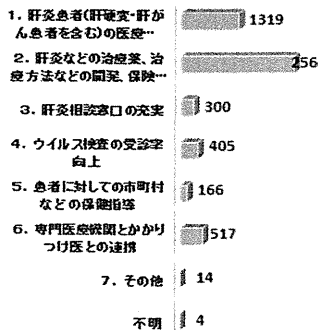


G-1 国(厚生労働省)の「肝炎対策の推進」で重要と思われるものを3つ選び、重要と思う順に1~3位の番号を記入して下さい(第2位)

6,331 人中、肝炎患者(肝硬変・肝癌患者を含む)の医療費・生活支援 1,319 人(20.8%、25.0%)、肝炎などの治療費、治療方法などの開発、保険認可 2,563 人(40.5%、48.5%)、肝炎相談窓口の充実 300 人(4.7%、5.7%)、ウイルス検査の受診率向上 405 人(6.4%、7.7%)、患者に対しての市町村などの保健指導 166 人(2.6%、3.1%)、専門医療機関とかかりつけ医との連携 517 人(8.2%、9.8%)、その他 14 人(0.2%、0.3%)、不明 4 人(0.1%)、無回答 1,043 人(16.5%)であった。

G-1 国(厚生労働省)の「肝炎対策の推進」で重要と思われるものを3つ選び、重要と思う順に1～3位の番号を記入して下さい 第2位

選択項目	回答数	頻度	頻度 【有効回答の %】
1. 肝炎患者(肝硬変・肝がん患者を含む)の医療費・生活支援	1319	20.8	25.0
2. 肝炎などの治療費、治療方法などの開発、保険認可	2563	40.5	48.5
3. 肝炎相談窓口の充実	300	4.7	5.7
4. ウイルス検査の受診率向上	405	6.4	7.7
5. 患者に対しての市町村などの保健指導	166	2.6	3.1
6. 専門医療機関とかかりつけ医との連携	517	8.2	9.8
7. その他	14	0.2	0.3
不明	4	0.1	
無回答	1043	16.5	
合計	6331	100.0	100.0

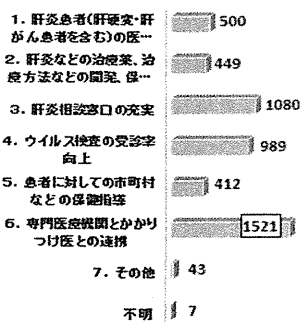


G-1 国(厚生労働省)の「肝炎対策の推進」で重要と思われるものを3つ選び、重要と思う順に1～3位の番号を記入して下さい (第3位)

6,331人中、肝炎患者(肝硬変・肝癌患者を含む)の医療費・生活支援 500人(7.9%、10.0%)、肝炎などの治療費、治療方法などの開発、保険認可 449人(7.1%、9.0%)、肝炎相談窓口の充実 1,080人(17.1%、21.6%)、ウイルス検査の受診率向上 989人(15.6%、19.8%)、患者に対しての市町村などの保健指導 412人(6.5%、8.2%)、専門医療機関とかかりつけ医との連携 1,521人(24.0%、30.5%)、その他 43人(0.7%、0.9%)、不明7人(0.1%)、無回答1,330人(21.0%)であった。

G-1 国(厚生労働省)の「肝炎対策の推進」で重要と思われるものを3つ選び、重要と思う順に1～3位の番号を記入して下さい 第3位

選択項目	回答数	頻度	頻度 【有効回答の %】
1. 肝炎患者(肝硬変・肝がん患者を含む)の医療費・生活支援	500	7.9	10.0
2. 肝炎などの治療費、治療方法などの開発、保険認可	449	7.1	9.0
3. 肝炎相談窓口の充実	1080	17.1	21.6
4. ウイルス検査の受診率向上	989	15.6	19.8
5. 患者に対しての市町村などの保健指導	412	6.5	8.2
6. 専門医療機関とかかりつけ医との連携	1521	24.0	30.5
7. その他	43	0.7	0.9
不明	7	0.1	
無回答	1330	21.0	
合計	6331	100.0	100.0



別紙 3

(別紙3)

医師向けアンケート調査のお願い

平成23年5月16日に定められた肝炎対策の推進に関する基本的な指針の中に、国は肝炎対策の推進に資することを目的として、医療機関において手術前等に行われる肝炎ウイルス検査の結果の説明状況等について実態を把握するための研究をおこなう、ということが明記されています。

平成24年度厚生労働科学研究費補助金（難病・がん等の疾患分野の医療の実用化研究事業）病態別の患者の実態把握のための調査および肝炎患者の病態に即した相談に対応できる相談員育成のための研修プログラム策定に関する研究班では、国立病院機構施設に1ナショナルセンター（国立国際医療研究センター）を加えた35施設に勤務する医師（初期研修医を除く）を対象として、肝疾患以外の患者に対する肝炎検査の説明に関する意識調査を実施することにしました。可能な範囲で、下記の質問内容にお答えいただき、ご協力いただけますようお願い申し上げます。なおアンケート調査結果は、集計をおこなった上で、本研究班報告書として公開する予定です。

- ・本アンケートは、自由意志に基づく無記名アンケート調査です。
- ・分からない質問や、答えにくい質問には、お答えいただく必要はありません。
- ・記入に当たっては特に説明がない限り、あてはまるものに○をつけてください。
- ・記入後は、各施設の担当の方へ提出をお願いします。

研究事業名： 厚生労働省 難病・がん等の疾患分野の医療の実用化研究事業
(肝炎関係研究分野)

研究課題名： 病態別の患者の実態把握のための調査および肝炎患者の病態に即した相談に対応できる
相談員育成のための研修プログラム策定に関する研究

調査責任施設： 独立行政法人国立病院機構 長崎医療センター

部 署： 臨床研究センター

調査責任者： 八橋 弘

お問合せ先： 担当 八橋 弘 電話(代表)：0957-52-3121

(独立行政法人国立病院機構 長崎医療センター 臨床研究センター)

調査期間：平成24年10月1日-12月31日

問1：あなたの年齢は

20歳代、 30歳代、 40歳代、 50歳代、 60歳代

問2：あなたの医師としての経験年数は

10年未満、 10年以上-20年未満、 20年以上-30年未満、 30年以上

問3：あなたの所属する診療科は

内科、 外科、 精神科、 アレルギー科、 リウマチ科、 小児科、 皮膚科、
泌尿器科、 産婦人科、 眼科、 耳鼻いんこう科、リハビリテーション科、
放射線科、 病理診断科、 臨床検査科、 救急科、 その他（ ）

問4：あなたは消化器病専門医を取得されていますか

取得している。 取得していない。

問5：あなたは肝臓専門医を取得されていますか？

取得している。 取得していない。

問6：過去1年間、手術や観血的処置などの事前検査として、肝疾患以外の患者に
肝炎検査（HBs抗原検査、HCV抗体検査）をおこなったことは

6-1. ある

6-2. ない

6-1. ある を選択された方は、問7-10の回答をお願いします。

6-2. ない を選択された方は、この時点で、本アンケート調査は終了です。

ご協力有難うございました。

問7： 肝炎検査で、陽性の結果が出た場合

- 7-1. 陽性結果を説明している
- 7-2. 陽性結果を説明していない。

問8： 肝炎検査で、陰性の結果が出た場合

- 8-1. 陰性結果を説明している。
- 8-2. 陰性結果を説明していない。

問9： 問7で陽性の結果を説明されている方（7-1）にお尋ねします。

消化器病専門医、肝臓専門医に、その患者さんを紹介されていますか

- 9-1. 紹介している。
- 9-2. 紹介していない。

(あなた自身が専門医の場合には、問9は回答しなくて結構です。)

問10. 今後の方針についてお尋ねします。手術や観血的処置などの事前検査として、肝疾患以外の患者に肝炎検査をおこない、その結果がわかった場合、

- 10-1. 陽性、陰性結果にかかわらず説明したいと思う。
- 10-2. 陰性例では説明しないが、陽性例では説明したいと思う。
- 10-3. 陰性、陽性結果に関係なく、説明はおこなわないと思う。
- 10-4. その他 ()

ご協力有難うございました。

別紙 4

(別紙 4)

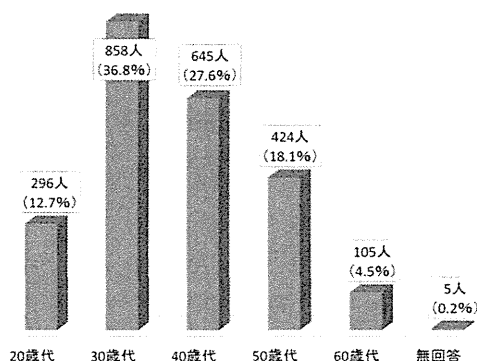
医師向けアンケート集計結果

今回の研究では、35施設の協力をいただき、アンケートの配布数3,239枚、回収数2,419枚(74.7%)、有効回答数2,333枚(72.0%)であった。

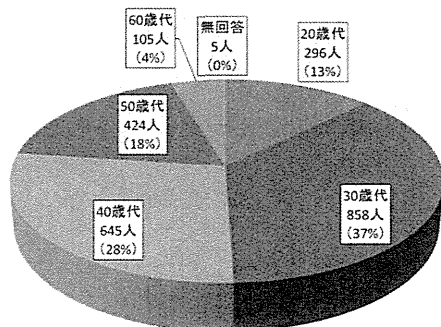
問1：あなたの年齢は

2,333人中、20歳代296人(12.7%)、30歳代858人(36.8%)、40歳代645人(27.6%)、50歳代424人(18.1%)、60歳代105人(4.5%)、60歳代5人(0.2%)であった。

問1. あなたの年齢は (N=2333)



問1. あなたの年齢は (N=2333)

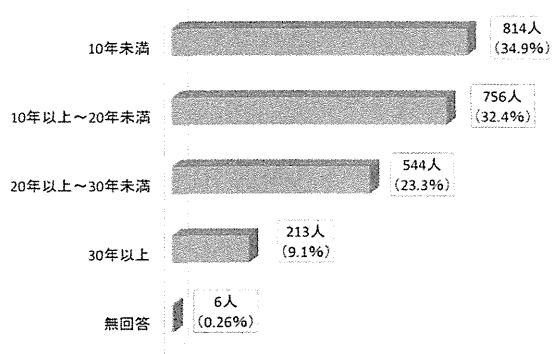


問2：あなたの医師としての経験年数は

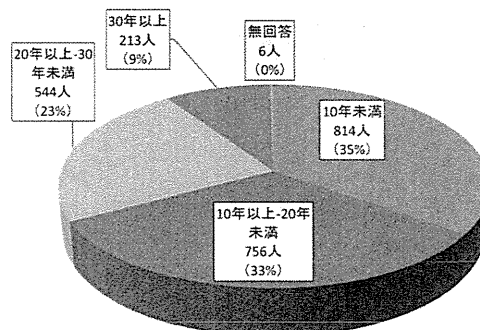
2,333人中、10年未満814人(34.9%)、10年以上～20年未満756人(32.4%)、20年以

上～30年未満544人(23.3%)、30年以上213人(9.1%)、無回答6人(0.26%)であった。

問2. あなたの医師としての経験年数は (N=2333)



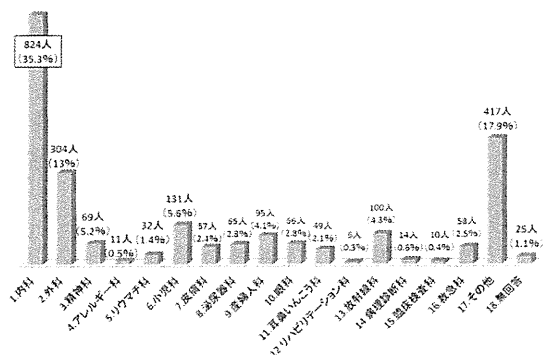
問2. あなたの医師としての経験年数は (N=2333)



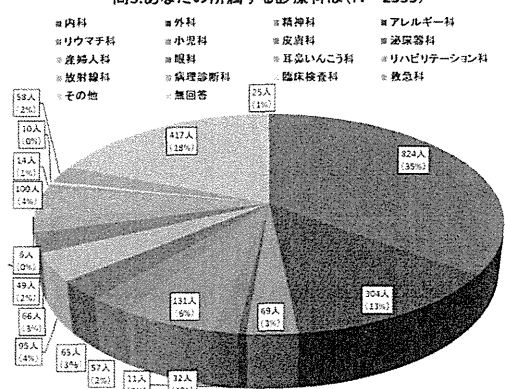
問3：あなたの所属する診療科は

2,333人中、内科824人(35.3%)、外科304人(13%)、精神科69人(5.2%)、アレルギー科11人(0.5%)、リウマチ科32人(1.4%)、小児科131人(5.6%)、皮膚科57人(2.4%)、泌尿器科65人(2.8%)、産婦人科95人(4.1%)、眼科66人(2.8%)、耳鼻咽喉科49人(2.1%)、リハビリテーション科6人(0.3%)、放射線科100人(4.3%)、病理診断科14人(0.6%)、臨床検査科10人(0.4%)、救急科58人(2.5%)、その他417人(17.9%)、無回答25人(1.1%)であった。

問3.あなたの所属する診療科は(N=2333)



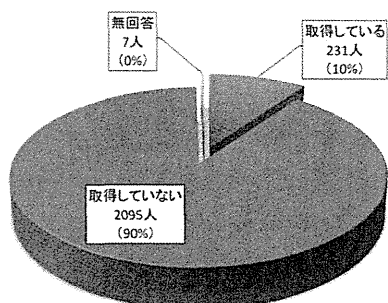
問3.あなたの所属する診療科は(N=2333)



問4:あなたは消化器病専門医を取得していますか

2,333人中、取得している231人(10%)、取得していない2,095人(90%)、無回答7人(0.3%)であった。

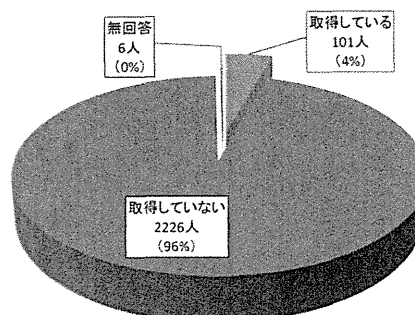
問4.あなたは消化器病専門医を取得していますか(N=2333)



問5:あなたは肝臓病専門医を取得していますか

2,333人中、取得している101人(4%)、取得していない2,226人(96%)、無回答6人(0.26%)であった。

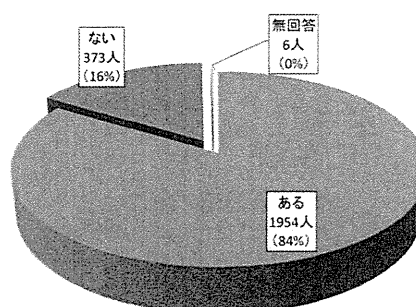
問5.あなたは肝臓病専門医を取得していますか(N=2333)



問6:過去1年間、手術や観血的処置などの事前検査として、肝疾患以外の患者に肝炎検査(HBs抗原検査、HCV抗体検査)をおこなったことは

2,333人中、ある1,954人(84%)、ない373人(16%)、無回答6人(0.26%)であった。

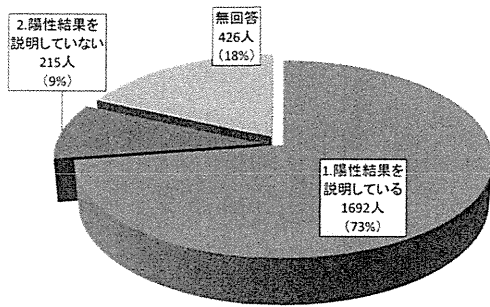
問6.過去1年間、手術や観血的処置などの事前検査として、肝疾患以外の患者に肝炎検査(HBs抗原検査、HCV抗体検査)をおこなったことは(N=2333)



問7-1:肝炎検査で、陽性の結果が出た場合

2,333人中、陽性結果を説明している1,692人(73%)、陽性結果を説明していない215人(9%)、無回答426人(18%)であった。

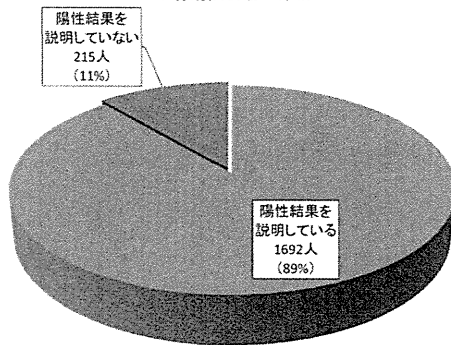
問7-1.肝炎検査で、陽性の結果が出た場合 (N=2333)



問 7-2 : 肝炎検査で陽性の結果が出た場合 ※有効回答者の集計

1,907 人中、陽性結果を説明している 1,692 人 (89%)、陽性結果を説明していない 215 人 (11%) であった。

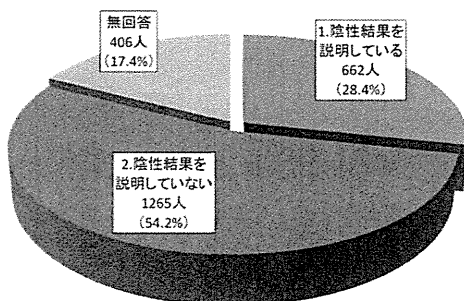
問7-2.肝炎検査で、陽性の結果が出た場合 (N=1907) ※有効回答者の集計



問 8-1 : 肝炎検査で、陰性の結果が出た場合

2,333 人中、陰性結果を説明している 662 人 (28.4%)、陰性結果を説明していない 1,265 人 (54.2%)、無回答 406 人 (17.4%) であった。

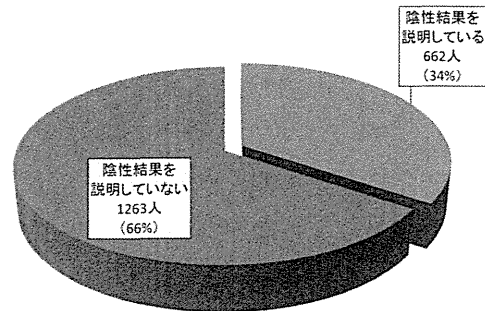
問8-1.肝炎検査で、陰性の結果が出た場合 (N=2333)



問 8-2 : 肝炎検査で、陰性の結果が出た場合 ※有効回答者の集計

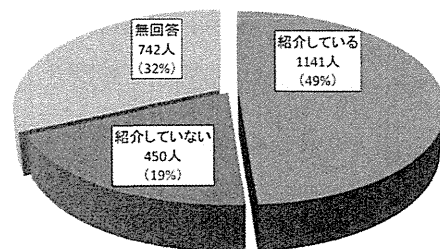
1,925 人中、陰性結果を説明している 662 人 (34%)、陰性結果を説明していない 1,263 人 (66%) であった。

問8-2.肝炎検査で、陰性の結果が出た場合 (N=1925) ※有効回答者の集計



問 9-2 : 問 7 で陽性の結果を説明されている方 (7-1) にお尋ねします。消化器病専門医、肝臓専門医に、その患者さんを紹介していますか 2,333 人中、紹介している 1,141 人 (49%)、紹介していない 450 人 (19%)、無回答 742 人 (32%) であった。

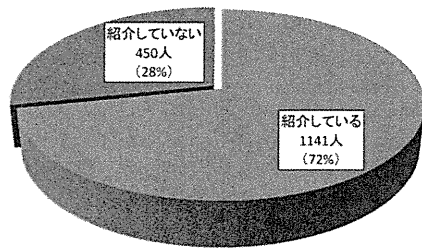
問9-1.問7で陽性の結果を説明されている方(7-1)にお尋ねします。消化器病専門医、肝臓専門医に、その患者さんを紹介されていますか (N=2333)



問 9-2 : 問 7 で陽性の結果を説明されている方 (7-1) にお尋ねします。消化器病専門医、肝臓専門医に、その患者さんを紹介していますか ※有効回答者の集計

1,591 人中、紹介している 1,141 人 (72%)、紹介していない 450 人 (28%) であった。

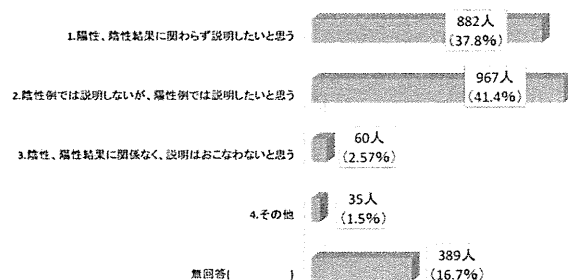
問9-2.問7で陽性の結果を説明されている方(7-1)にお尋ねします。消化器病専門医、肝臓専門医に、その患者さんを紹介されていますか(N=1591)
※有効回答者の集計



問 10-1：今後の方針についてお尋ねします。
手術や観血的処置などの事前検査として、肝疾患以外の患者に肝炎検査を行い、その結果が分かった場合

2,333人中、陽性、陰性結果に関わらず説明したいと思う882人(37.8%)、陰性例では説明しないが、陽性例では説明したいと思う967人(41.4%)、陰性、陽性結果に関係なく、説明は行わないと思う60人(2.57%)、その他35人(1.5%)、無回答389人(16.7%)であった。

問10-1.今後の方針についてお尋ねします。手術や観血的処置などの事前検査として、肝疾患以外の患者に肝炎検査をおこない、その結果が分かった場合(N=2333)

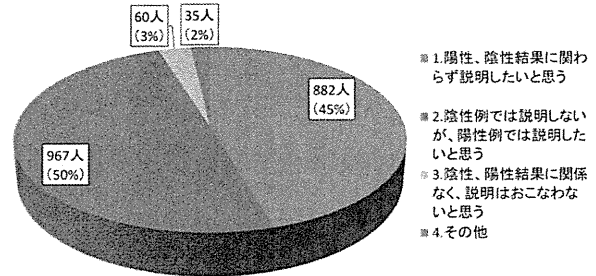


問 10-1：今後の方針についてお尋ねします。
手術や観血的処置などの事前検査として、肝疾患以外の患者に肝炎検査を行い、その結果が分かった場合 ※有効回答者の集計

2,333人中、陽性、陰性結果に関わらず説明したいと思う882人(45%)、陰性例では説明

しないが、陽性例では説明したいと思う967人(50%)、陰性、陽性結果に関係なく、説明は行わないと思う60人(3%)、その他35人(2%)であった。

問10-2.今後の方針についてお尋ねします。手術や観血的処置などの事前検査として、肝疾患以外の患者に肝炎検査をおこない、その結果が分かった場合(N=1946)
※有効回答者の集計



別紙 5

(別紙5)

本邦のウイルス性急性肝炎の発生状況調査と治療法に関する研究

研究要旨 1980年から2012年までの過去33年間に、国立病院機構肝疾患ネットワーク参加33施設内で散発性急性肝炎として登録された症例数は4,676例で、うちA型が1,624例(34.7%)、B型が1,363例(29.2%)、C型が406例(8.7%)、非A非B非C型肝炎が1,283例(27.4%)であった。

2000-2009年の期間内の頻度は、A型16.8%、B型39.2%、C型9.5%、非A非B非C型34.5%であり、B型と非A非B非C型が大勢を占める状況にあった。2010-2011年の2年間においては177例の登録、A型27例(15.3%)、B型71例(40.1%)、C型22例(12.4%)、非A非B非C型57例(32.2%)であった。そして今回登録された2012年単年は81例の登録があり、A型6例(7.4%)、B型41例(50.6%)、C型8例(9.9%)、非A非B非C型26例(32.1%)であった。

A型肝炎の発生に関しては1983年(162例)と1990年(187例)に流行を認めるも、それ以後は減少傾向にある。ただし2007年から2009年の3年間は毎年10例未満であったが、2010年21例、2011年6例、2012年6例の発生数であった。

1980年から2011年までの期間のE型肝炎の頻度は、非A非B非C型肝炎の6.0%(59/983)であったが、2011年非A非B非C型肝炎の10.3%(3/29)、2012年非A非B非C型肝炎7.6%(2/26)(暫定数)であった。

B型急性肝炎の中で、いわゆる欧米型B型肝炎(Gt A)の発生頻度は、2000年前後以後増加し、2007年は52.3%(23/44)、2008年54.8%(23/42)と50%以上の頻度であったが、2009年は40.8%(20/49)、2010年は33.3%(14/42)、2011年は40.7%(11/27)、2012年31.7%(13/40)(暫定数)であった。

研究組織 各施設代表者 (H25年1月時点)

大原 行雄	北海道医療センター
眞野 浩	仙台医療センター
矢倉 道泰	東京病院
小松 達司	横浜医療センター
小林 正和	まつもと医療センター
太田 肇	金沢医療センター
三田 英治	大阪医療センター
高野 弘嗣	呉医療センター
山下 晴弘	岡山医療センター
林 亨	善通寺病院
佐藤 丈頭	小倉医療センター
中牟田 誠	九州医療センター
室 豊吉	大分医療センター
平田 啓一	災害医療センター
石田 仁也	西埼玉中央病院
渡部 幸夫	相模原病院
島田 昌明	名古屋医療センター

米田 俊貴	京都医療センター
肱岡 泰三	大阪南医療センター
古賀 満明	嬉野医療センター
高橋 正彦	東京医療センター
山本 哲夫	米子医療センター
杉 和洋	熊本医療センター
酒井 浩徳	別府医療センター
西村 英夫	旭川医療センター
正木 尚彦	国立国際医療研究センター
加藤 道夫	南和歌山医療センター
竹崎 英一	東広島医療センター
蒔田 富士雄	西群馬病院
高木 均	高崎総合医療センター
平嶋 昇	名古屋医療センター
牧野 泰裕	岩国医療センター
研究協力者	
山崎 一美	長崎医療センター

A. 研究目的

国立病院機構肝疾患ネットワーク参加施設をフィールドとして急性肝炎の疫学、発生状況を調査する。また、いわゆる原因不明とされる非A非B非C型急性肝炎におけるE型肝炎感染の実態を明らかにするとともに、最近、本邦で発生増加が懸念されている欧米型B型肝炎（genotype A）の発生状況、頻度を明らかにする目的で検討をおこなう。

B. 研究方法

全国33施設からなる国立病院機構肝疾患ネットワーク参加施設をフィールドとして多施設共同研究をおこなう。各施設に急性肝炎として入院した患者の症例登録をおこない、各起因ウイルス別に発生頻度を調査する。急性肝炎の分類としては、感染経路から、散発性と輸血後の2群に分類し、また起因ウイルス分類としては、A型、B型、C型、非A非

B非C型肝炎の4群に分類した。また、E型肝炎は非A非B非C型急性肝炎の患者血清からHEV抗体測定した。なおHEV-RNAの検出、塩基配列決定は2012年登録例はまだ行っていない。HBV genotypeはEIA法で行った。

本研究は「疫学研究のための倫理指針」および「個人情報保護法」を順守し、患者への研究協力の説明と同意は、書面にて遂行した。

C. 研究結果

散発性急性肝炎の頻度

1980年から2011年までの過去33年間に、本研究参加ネットワーク施設内で、散発性急性肝炎として登録された症例数は4,676例で、うちA型が1,624例（34.7%）、B型が1,363例（29.2%）、C型が406例（8.7%）、非A非B非C型肝炎が1,283例（27.4%）であった（表1）。

表1. 散発性急性肝炎の型別年次推移（1980-2012年, 33施設）

年	A型	B型	C型	非ABC型	計	年	A型	B型	C型	非ABC型	計
80	44(30.6)	55(38.2)	16(11.1)	29(20.1)	144	97	49(43.4)	25(22.1)	9(8.0)	30(26.5)	113
81	50(33.4)	42(28.0)	17(11.3)	41(27.3)	150	98	30(21.9)	37(27.0)	7(5.1)	63(46.0)	137
82	37(28.2)	55(42.0)	13(9.9)	26(19.8)	131	99	52(43.3)	27(22.5)	7(5.8)	34(28.3)	120
83	162(57.7)	51(18.1)	16(5.7)	52(18.5)	281	00	15(17.7)	34(39.0)	8(9.2)	30(35.3)	87
84	57(32.8)	66(37.9)	9(5.2)	42(24.1)	174	01	39(30.0)	45(34.6)	17(13.1)	29(22.3)	130
85	33(20.9)	51(32.3)	18(11.4)	56(35.4)	158	02	45(38.5)	29(24.8)	8(6.8)	35(29.9)	117
86	65(33.5)	54(27.8)	21(10.8)	54(27.8)	194	03	23(22.5)	31(30.4)	12(11.8)	36(35.3)	102
87	31(17.9)	62(35.8)	18(10.4)	62(35.8)	173	04	14(11.0)	60(47.2)	11(8.7)	42(33.1)	127
88	86(45.3)	46(24.2)	17(8.9)	41(21.6)	190	05	12(9.8)	39(34.8)	8(7.1)	53(47.3)	112
89	122(51.9)	47(20.0)	16(6.8)	50(21.3)	235	06	19(17.8)	49(45.8)	11(10.3)	28(26.2)	107
90	187(65.8)	39(13.7)	14(4.9)	44(15.5)	284	07	6(5.9)	49(48.0)	7(6.9)	40(39.2)	102
91	115(55.8)	37(18.9)	15(7.3)	37(18.0)	204	08	5(4.6)	45(41.7)	6(5.6)	52(48.1)	108
92	77(54.6)	27(19.1)	9(6.4)	28(19.9)	141	09	8(7.0)	53(46.1)	17(14.8)	37(32.2)	115
93	84(52.8)	27(17.0)	16(10.1)	32(20.1)	159	10	21(19.6)	44(41.1)	11(10.3)	31(29.0)	107
94	64(49.6)	23(17.8)	13(10.1)	29(22.5)	129	11	6(8.6)	27(38.6)	11(15.7)	26(37.1)	70
95	40(33.6)	24(20.2)	17(14.3)	38(31.9)	119	12	6(7.4)	41(50.6)	8(9.9)	26(32.1)	81
96	20(26.7)	22(29.3)	3(4.0)	30(31.9)	75	計	1624 (34.7)	1363 (29.2)	406 (8.7)	1283 (27.4)	4676

A型肝炎の頻度

1980-1989年 (I期)、1990-1999年 (II期)、2000-2009年 (III期) の3期に区分して、A型肝炎の発生頻度をみるとI期では37.5%、II期では48.5%であったが、III期では16.8%と減少していた。A型肝炎は、1983年と1990年にそれぞれ162例、187例と流行を認めたが、それ以後は減少傾向にある。2007年から2009年の3年間は毎年10例未満の発生数であったが、2010年21例、2011年6例、2012年6例の発生を認めた (図1)。

2000年以後の頻度

III期での起因ウイルス別の頻度は、A型16.8%、B型39.2%、C型9.5%、非A非B非C型34.5%であったのに対し、2010年は107例の登録があり、A型21例 (19.6%)、B型44例 (41.1%)、C型11例 (10.3%)、非A非B非C型31例 (29.0%)。2011年は70例の登録があり、A型6例 (8.2%)、B型27例 (37.0%)、C型11例 (15.1%)、非A非B非C型29例 (39.7%)。そして2012年は81例の登録があり、A型6例 (7.4%)、B型41例 (50.6%)、C型8例 (9.9%)、非A非B非C型26例 (32.1%)であった。B型、非A非B非C型が大勢を示す傾向は変わらなかった (図1)。

輸血後急性肝炎

1980年から2012年までの過去33年間に輸血後急性肝炎として登録された症例数は292例で、うちB型が24名 (8.2%)、C型が206例 (70.5%)、非A非B非C型が62例 (21.2%)であった。2009年に1例、輸血後

C型肝炎症例が登録されたが、輸血後6か月以内に発生した肝炎で輸血以外の感染経路で感染したことが確認されている例であった (表2、図2)。2011年は1例、C型急性肝炎+de novo B型肝炎例+CMVなどの重複感染例が報告された。2012年はB型急性肝炎が報告された。この症例は血液疾患を基礎疾患として末梢血幹細胞移植後に輸血製剤を投与し、これにより感染したと報告された。

E型肝炎

本研究参加ネットワーク施設内で2011年までに非A非B非C型急性肝炎と診断した1,261例中、983例で初診時血清を用いてHEV抗体を測定した。その結果、983例中IgG-HEV抗体陽性は141例で、うち59例 (非A非B非C型肝炎の6.0%)はIgM-HEV抗体も陽性を示したことから、この59例をE型急性肝炎例と診断した (表3)。59例の内訳は、男性53名 (89.8%)、女性6名 (10.2%)と男性に多く、年齢層では10代2名、20代4名、30代8名、40代13名、50代16名、60代8名、70代8名で、40代と50代をあわせると49.2% (29/59)の頻度であった。

E型肝炎の発生頻度の推移に関しては、2004年以後、増加傾向にあり、特に2009年は29.0% (9/31)と頻度、件数ともに増加したが、2011年は10.3% (3/29)の頻度であった。

2012年は26例非A非B非C型急性肝炎のうち、2例のIgA-HEV抗体陽性を確認し、1例はHEV-RNA陽性を確認しているが、1例はHEV-RNAが未測定であり、確定していない。